

## 平成20年度「専修学校を活用した再チャレンジ支援推進事業」成果報告書

事業名	元ニートによるニートのための自立支援講座及びニート予防講座の実施並びに沖縄版PA(パーソナル・アドバイザー)の養成とニート支援モデルの構築		
法人名	学校法人 沖縄中央学園		
学校名	専門学校 沖縄中央学園		
代表者	理事長 新垣 紀子	担当者 連絡先	新垣 安仁 098-933-9201

### 1. 事業の概要

- ①自立支援講座の実施(2回実施合計61時間)  
沖縄県内の若者自立塾の塾生及び修了生を対象に自立支援講座の実施。
- ②予防講座の実施(7回実施)  
沖縄県高等学校生徒就労支援センターや県内の高等学校と連携して、進路支援講座や金銭教育講座を実施して就労意識の向上を図り、ニート予防を行った。
- ③沖縄版PA(パーソナル・アドバイザー)養成  
若年者に対する自立支援者の研修・養成として高等学校の教職員(2回)、専門学校の教職員(3回)、一般支援者向け(1回)実施した。
- ④サポートステーションの先進地域(5か所)を視察し、県内のニート支援モデルの参考になった。

### 2. 事業の評価に関する項目

#### ①目的・重点事項の達成状況

1. 自立支援講座の実施に関しては、予定通り2回実施し、また、2回目に関しては自立支援講座を受講した元ニートの意見を参考にしてニートの弱みである自己理解とコミュニケーションスキルに重点を置き、また、運営方法も短期集中型から長期分散型に変更することで、受講者に対してゆとりのある講座を行うことができ、受講生の仕事(就労)に対する積極的な意識の向上を図ることができた。
2. 予防講座の実施に関しては、県内の高等学校内において、金銭的な自立を促し、働き方と生活資金の関係を理解することで、ニート(無業者)を増やさないようにするための講座を中心に7回実施し、ニート予防の働きかけを行うことができた。
3. 沖縄版PA(パーソナル・アドバイザー)養成に関しては、高等学校の教職員に対して、専門学校の教職員に対して、一般支援者に対して、それぞれ若年者の自立支援に必要な「カウンセリングスキル」「キャリア形成の考え方」「就職支援ツールの使い方」などのセミナーを実施することで、自立支援者としてのスキルアップを図った。
4. ニート支援モデルの構築に関しては、ニート支援の先進地域を視察調査し、意見交換会を行うことで、サポートステーションの意義と役割を認識することで沖縄にあったサポートステーションの方向性について視野が広がり、ニート支援モデルの構築のきっかけとなった。

#### ②事業により得られた成果

自立支援講座に関しては、従来の講座プログラム(自己理解、仕事理解、コミュニケーションスキル、ビジネスマナー、就職活動のポイント、専門学校での職業体験講座)を基に、実際に受講したことのある元ニートの意見を参考にして、ニートの弱みである自己理解やコミュニケーションスキルに重点を置き、運営方法も短期集中型から長期分散型に変更することで、受講生からも自立塾の職員からも「自己理解の浸透と意識の向上が図られやすかった。」との実証で、自立塾生に対する効果的なカリキュラムと運営方法が確立されつつある。予防講座は、高等学校在学中に身近なお金を通して「働き方と生活資金の関係」を理解することで、就業に対する意識の向上を図ることで、ニート予防の一助を行うことができ、また、高等学校の教職員に対して、キャリア教育の一端を認識させることができた。沖縄版PA養成は、自立支援者に対して専門的な知識や技能のセミナーをワーク形式で行うことで、自立支援者のスキルアップを図ると同時にキャリア教育に対する不安を軽減させることができた。ニート支援モデルの構築は、ニート支援の先進地域を視察調査を行ったことで、沖縄県内の方向性と課題を確認することができ、また、視察地域とネットワークを構築することで、沖縄県内のニート支援の底上げが図られるきっかけとなった。

### ③今後の活用

自立支援講座(無業者対策)に関しては、これからも講座プログラムのバージョンアップを図り、若者自立塾や若者サポートステーションと連携を取り、継続的に実施していく。予防講座に関しても、プログラム内容のバージョンアップを図り、高等学校内での浸透を図っていく。沖縄版PAに関しては、自立支援者のネットワークを構築して、お互いの自立支援に対する課題や不安を話し合える土壌を形成していく。

### ④次年度以降における課題・展開

沖縄のニート支援モデルを構築するためにも、自立支援者のスキルアップと底辺拡大を行うためにも、行政各部署との連携や協力・理解が必要不可欠であり、就業体験の実践の場になる企業の理解と協力も必要になる。そこで、行政・企業を巻きこんだ沖縄的ニート支援ネットワークの構築が、今後の大きな課題である。

## 3. 事業の実施に関する項目

### ①履修証明書等

履修証明書等の発行はしませんでした。

### ②カリキュラムの内容

■第1回自立支援講座: 自己理解、職業理解、コミュニケーションを中心としてワーク&座学+職業体験講座(保育系、ファッション系)

■第2回自立支援講座: 自己理解、職業理解、対人関係能力、コミュニケーションを中心としたワーク&講義+職業体験講座(経理事務の仕事)

■予防講座: 予防講座については、実施高等学校のリクエストに答える形で講座内容を組み立てた。ただし、基本的には、「自立支援・準備編」とし、「働くことには、生計の維持、自己実現の喜びとともに、社会に参画し社会を支えるという意義があることへの理解」に重点を置き、一人暮らしををするという前提でお金の稼ぎ方・使い方・貯め方の学習から「働き方の違い」や「生涯賃金」・「進路選択」について考えてもらう内容とした。

### ③講座の実施

■第1回自立支援講座: 平成20年10月1日～3日、6日～7日の5日間(30時間) 参加者: 8名

■第2回自立支援講座: 平成20年12月11日～平成21年2月19日の毎週木曜日10日間(31時間) 参加者: 6名

■予防講座

第1回:	平成20年9月29日	浦添商業高校	160名
第2回:	平成21年1月13日	星槎国際高校	60名
第3回:	平成21年1月29日	嘉手納高校	40名
第4回:	平成21年1月30日	陽明高校 1年	480名
第5回:	平成21年2月1日	沖縄県高等学校生徒就学支援センター	11名
第6回:	平成21年2月3日	嘉手納高校	40名
第7回:	平成21年2月9日	嘉手納高校	40名

### ④支援対象者(受講者)の状況

自立支援講座、予防講座及びPA講座とも90%以上の参加者の方が「大変良かった」または「良かった」との評価でした。また、自立支援講座では、若者自立塾の塾生が講座終了後に就職活動をはじめ就職が決まるなど、講座の効果は大いにあったと思います。また、予防講座でも進路未決定の生徒が、自覚を持って進路決定したとの報告を頂いています。